
 書評

Joseph Leidy: The last man who knew everything Warren, Leonard (1998)

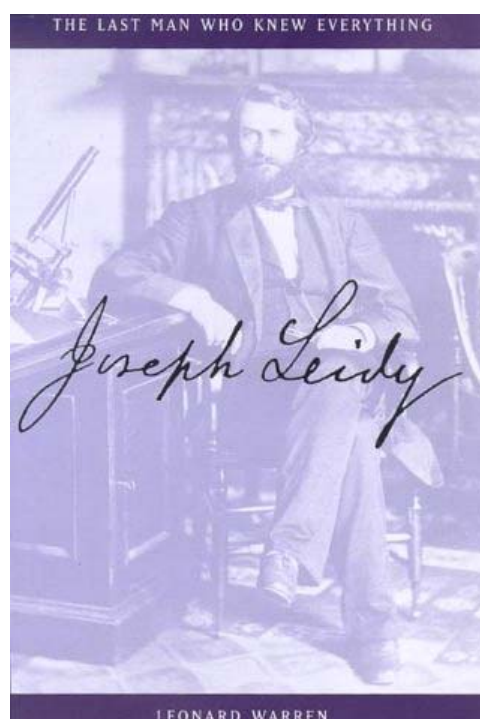
島野 智之
東北農業研究センター
〒960-2156 福島市荒井字原宿南 5 0

昨年、織毛虫界の大物 Dr. J.O. Corliss を頼って、フィラデルフィアまで旅行した。このときに、Academy of Natural Science of Philadelphia にも立ち寄り、Dr. Joseph Leidy のアメーバのスケッチを拝見してきた。はがきより少し小さなカードに、400 枚ほどの鉛筆で描かれた細密な図であった。Corliss (2001) "Two most remarkable *Amoeba* man" の Figs. 3 & 4 は、彼の最も有名かつ重要な著作である Leidy (1879) から抜き出した図であり、実際の大きさとしてはこの3分の2ほどの大きさであったと思う。彼のアメーバのスケッチを見るためにだけ、この博物館を訪れた人物は、最近では私以外にはいないらしく、学芸員にとっても驚かれた（むしろアメーバのスケッチを出してもらうまでが、ひと苦労だった。彼の講義の為の描画などたくさん拝見したが、むしろそれらに興味はなかった）。彼は、むしろ化石学者、博物学者一般として、この博物館では有名なのであった。

私たちの心の拠り所である原生動物学の教科書 Kudo (1966) の扉には Dr. Leidy の言葉が引用されている。

「顕微鏡による驚くべき新事実の発見は、もしかすると望遠鏡による発見よりも重要性において、優れてはいないかも知れない。しかし、顕微鏡が我々の好奇心、驚き、そして賛美を呼び起こすとき、それは、我々の身近な周りの物への知見・認識に無限の貢献を与えてきた。: Leidy」

前置きが長くなった。この本は、この博物館の英雄として書籍部に置かれていたものであり、Dr. Jo-



seph Leidy の伝記である。日本ではおそらく目にとまることはないだろうと思い、紹介する次第である。“Prototype of scientist, The last man who knew everything” というこの本の言葉に象徴されるように、初

Warren, Leonard (1998)
Joseph Leidy: The last man who knew everything, pp.303
Yale University press, New Haven & London. \$39.95
(インターネット amazon.co.jp にて購入可能)

Received: 27 Aug 2003

期の生物学者として博物学者として最後の偉人であったとこの伝記は賞賛する。実際にこの本を読んでもみると、彼の研究の分野の広さと細密さに、本当に驚くばかりである。

控え目で、謙虚な科学者に描かれたDr. Joseph Leidy (1823-91) の同時代の人、人間の解剖学、古生物学、原生動物学、寄生虫学、人類学、鉱物学、植物学および多数の他の科学的な分野に関係のある質問がある場合には、最高の相談役として彼を崇敬したという。Dr. Leidy の業績、および彼の科学的な利益および知識の幅は驚くべきであり、要するに、彼はすべてを知っていた人に見えたのである。

19世紀半ばのアメリカの科学者をリードする注目すべき Dr. Leidy は、彼の時代には主要な人間の解剖学者、最初の本当に生産的な顕微鏡学者、そして多数の画期的な科学的な書類および本の著者であり、そしてペンシルバニア大学とスワスモア・カレッジの熱心な教授であった。疲れを知らないパイオニアおよび優秀なイラストレーター (Dr. Leidy) は、アメリカで法医学の中でツールとして最初に顕微鏡を使用したという。顕微鏡により、彼は、アメリカで寄生虫学の概念を確立した。そして、そこで初めてブタ、人間の疾病旋毛虫病 (trichinosis) の原因として解剖学の実習中に不可解なシストを見つけ、これについて調査し、旋毛虫 (Genus *Trichina*) の新種記載 (*T. affinis*) を行い、アメリカの原生動物学および寄生虫学の父になった。また、アメリカにおける脊椎動物の古生物学の創立者として、彼は、アメリカでの恐竜および他の多くの絶滅した動物を最初に記載した。

残念なことは、この本の著者 Leonard Warren がほとんどDr. Leidyの原生動物学への貢献を記述していないことだ。それは、どれだけ彼の他分野の仕事が偉大であったかを示す物である。しかし、Corliss (2001)もいうように、彼の仕事が現在のアメーバの分類の基礎の一部を成しているに行っても過言ではない。彼の美しい解剖学の図や、古生物学の図に混じって、唯一2ページにわたってアメーバの挿し絵は、あるのみである。

だが、もう一カ所とても大切なところに (この本の扉 (!)) に、彼が原生動物に捧げた言葉があるのを見つけた。

「まだまだ新しい未記載のアメーバがいるうちは、どういふわけで人生が退屈だなんて言っているんだい? — Joseph Leidy」

引用文献

- Corliss, J.O. (2001) Two most remarkable *Amoeba* man: Joseph Leidy (1823-1891) of Philadelphia and Eugène Penard (1855-1954) of Geneva. *Protist*, 152, 69-85.
- Kudo R.R. (1966) *Protozoology*, 5th ed., C.C. Thomas, Springfield, pp.1174
- Leidy, J. (1879) Fresh water rhizopods of North America. United States Geological Survey of the Territories Report, 12:1-324, plus 48pls in colour.